

関修委研究委員会報告

平成15年度修学旅行実施状況の 「調査集計結果の分析と考察」

研究委員長	久保	徹	(宇都宮市立城山中学校長)
研究委員	山形	一男	(日上市立中里中学校長)
"	橋爪	俊吉	(伊香保町立伊香保中学校長)
"	羽角	行男	(吉川市立南中学校長)
"	石畑	榮一	(松戸市立根木内中学校長)
事務局	柳川	達郎	(財団法人全国修学旅行研究協会理事)

*報告書は関修委ホームページ(shugakuryoko.com 内の関修委サイト)に掲載いたします。

関東地区公立中学校修学旅行委員会

(事務局：財団法人 全国修学旅行研究協会)

実施状況

実施時期

1. 5月、6月の実施校が圧倒的に多く、あわせると84.3%になる。4月実施もあわせれば92.1%の実施であり、春季の実施傾向は今後も続くと思われる。
2. 1つの時期に集中することは、これまでの課題が継続されることになり、これを解決するためには時期の分散化が図れるかどうかであり、今後の検討が必要である。
3. 関修委としては、学校経営上希望が強くでている「4月を避けたい」を考慮し、平成17年度は5月10日以降の実施を実現させた。

実施日数

1. 2泊3日が圧倒的に多い(99.3%)。これについてはほとんどの県で決められ(管理規則)、それに則って実施しているからであろう。その他の一例として、自治体のバックアップのもと海外体験学習を兼た修学旅行を泊数を多くして実施している。小規模校の例が多い。

実施方面

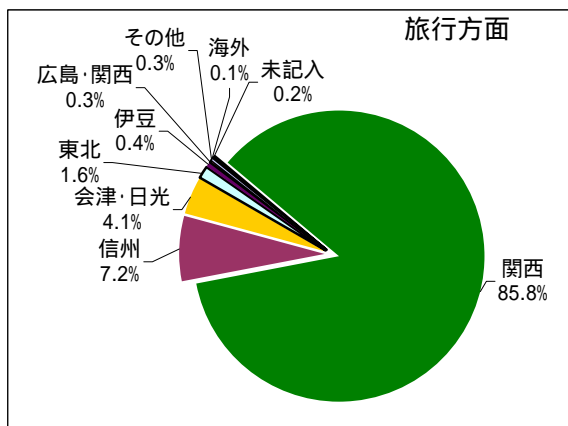
1. 関西方面が、85.8%と多く、これまでと同様の傾向を示している。千葉県は関西方面(57.9%)のほか、信州(22.9%)、会津・日光(13.2%)と旅行方面の分散化が見られるが、他の4県はほぼ関西方面であり、従前と大きな変動はない。
 なお、群馬県に7日間実施の学校1校あるが、修学旅行と海外体験学習と抱き合わせの実施で海外へ行っている。

宿泊地

1. 各府県の主な宿泊地
 - ・北海道、東京、九州、沖縄への宿泊をしている学校はない。
 - ・京都連泊が圧倒的に多く、続いて奈良1泊・京都1泊、長野方面の連泊、会津・日光方面がやや多い。
2. 方面別の動向
 - ・関西方面がさらに増えている。
 - ・千葉県においては、学校の旅行内容によって方面が多岐になっている。

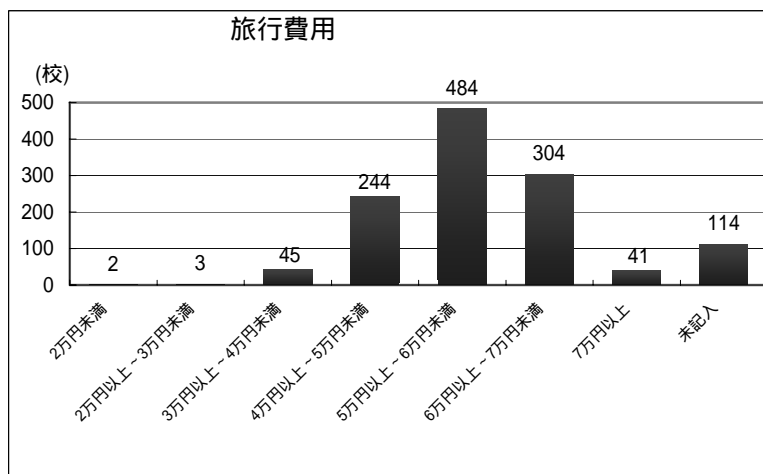
主な宿泊地(校数)

府県名	1泊目	2泊目
青森県	1	1
秋田県	0	2
岩手県	6	4
山形県	4	3
福島県	48	41
栃木県	6	10
神奈川県	1	3
静岡県	3	1
山梨県	1	1
長野県	70	69
新潟県	1	2
岐阜県	14	14
滋賀県	13	12
京都府	901	1017
大阪府	38	10
兵庫県	1	2
奈良県	94	10
広島県	4	0
	1,206	1,202



旅行費用

- ・旅行費用においては、各県とも見積もりをとり、それを検討した上で決定している。
- ・行き先によって、また体験学習や班別行動時の費用などの差によって、旅行費用全体の差がある。長野・福島へ行っている学校は特急料金の割引がないこともあり、関西より旅行費用が高い。
- ・旅行費用の平均額は、表から 55,000 円前後である。
- ・旅行費用は 50,000 円以上～60,000 円未満が 39.1%、60,000 円以上～70,000 円未満 24.6%であり、あわせて 63.7%を占めている。その中で、体験学習活動費を含んでいるところと体験学習活動費を除外した額を示したところがあって、その内訳は把握できない。

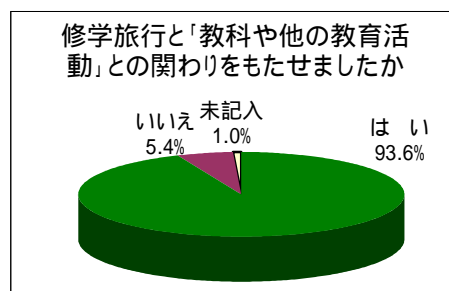
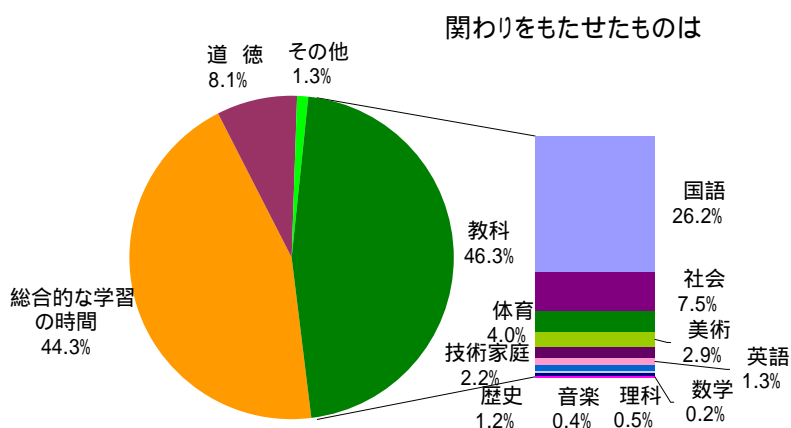


修学旅行のねらいについて

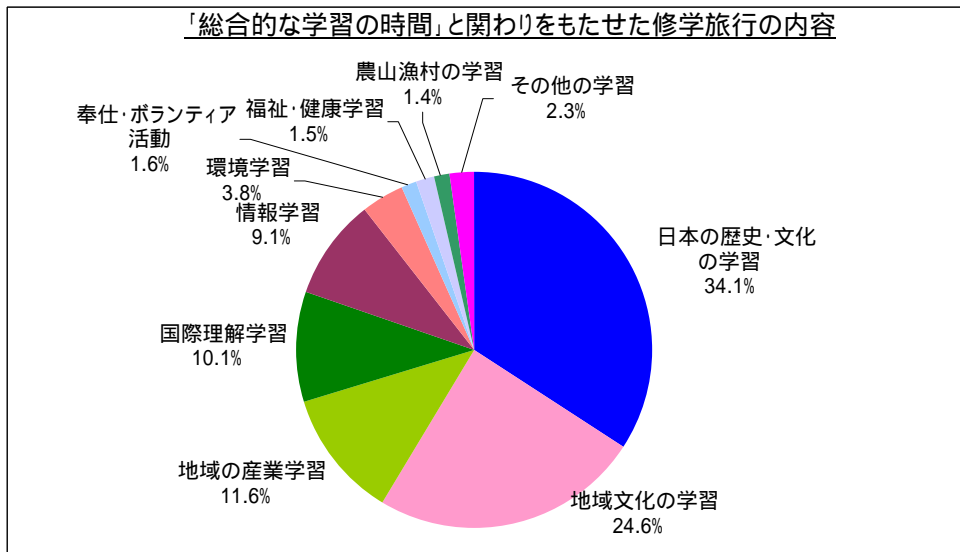
- ・班行動を取り入れている学校の多くは、「班行動による協力の心の育成」が最も多く、次に「生徒間の人間関係作り」である。このことは社会全体の「人間関係の希薄」という今日的課題に対し、交流を通して視野を広げることを重視している学校が多いということであろう。
- ・続いて「見聞を広め、知識の習得」であるが、旅行の目的として欠かせないことである。

修学旅行と「教科や他の教育活動」との関わり方

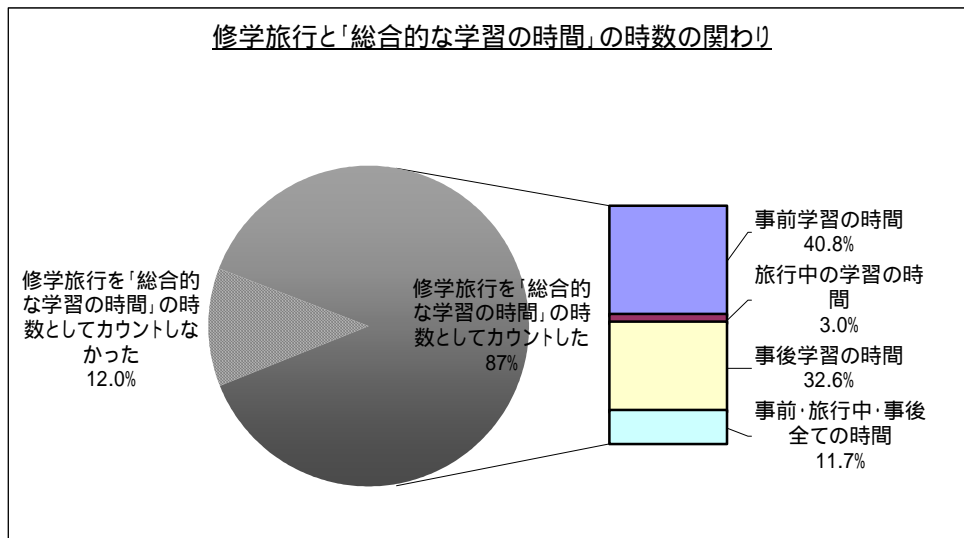
1. 93.6%が修学旅行と「教科や他の教育活動」と関わりをもたせている。当然のことといえる結果である。
2. 関わりの深いものは、「総合的な学習の時間」(44.3%)と社会科(26.2%)で両方をあわせると70.5%になっている。予想されるとおり、「総合的な学習の時間」との関わりが深い。



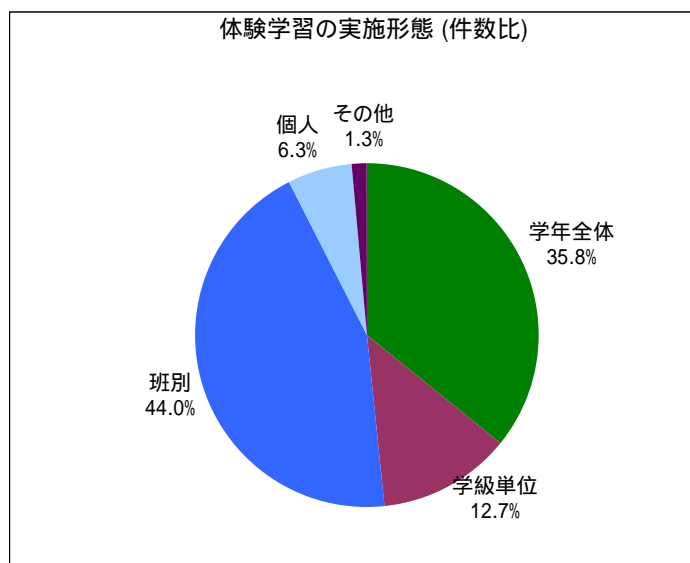
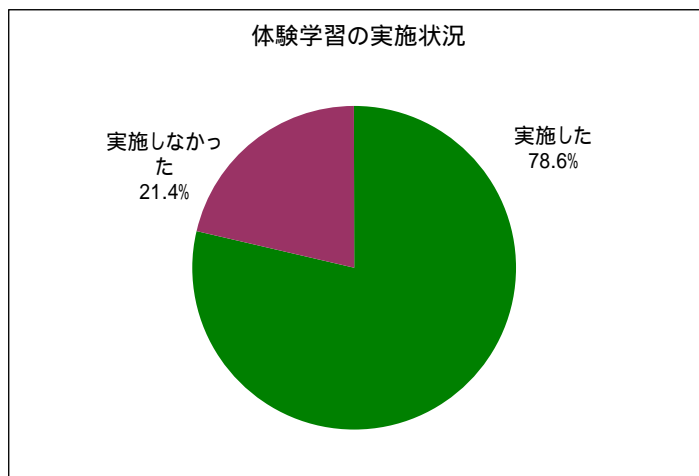
3. 「総合的な学習の時間」と関わりをもたせている学習内容として「日本の歴史・文化の学習」(34.1%)「地域文化の学習」(24.6%)、両方をあわせると58.7%を占める。



4. 修学旅行と「総合的な学習の時間」の時数の関わりについては、事前学習が46.3%、事後学習が37.0%扱っている。
- ・「旅行中の学習の時間」(3.4%)は体験学習を当てたものであると予想されるが定かではない。事前・旅行中・事後すべてを通して「総合的な学習の時間」に当てる(13.3%)のと合わせて、「旅行中の時間」を「総合的な学習の時間」に当てることについては、検討すべきことであろう。



体験学習の実施状況について



主な体験学習の実施状況

(単位:件数、%)

分類	体験学習区分	旅行方面		会津・日光		関東		信州		関西		合計		
		件数	構成比	件数	構成比	件数	構成比	件数	構成比	件数	構成比	件数	構成比	
歴史文化体験	歴史文化遺産	文化遺産・史跡めぐり	1	2.2					5	1.2	16	0.9	22	0.9
		古墳遺跡	1	2.2									1	0.0
	生活歴史文化遺産	宗教(座禅・法話・写経)	1	2.2					2	0.5	217	11.8	220	9.3
		民俗(方言の調査)	1	2.2	2	3.1			2	0.5	1	0.1	6	0.3
		伝統芸能(狂言・能・雅楽・和楽器)							1	0.2	52	2.8	53	2.2
	伝統文化	京舞・舞妓とのふれあい									11	0.6	11	0.5
		茶道・香									58	3.2	58	2.5
	創作	舞妓体験(変身)・着物着付け									75	4.1	75	3.2
		工芸品(京扇子・数珠・組紐・象嵌・ガラス工芸)	5	10.9	9	13.8			107	25.8	500	27.3	621	26.3
		民芸品(ざるぼぼ・ひょうたん絵付け)	4	8.7	14	21.5			9	2.2			27	1.1
		民具(木工曲げ物、わら細工)	2	4.3					5	1.2			7	0.3
		菓子(八つ橋・和菓子・金平糖)	2	4.3	5	7.7			9	2.2	331	18.1	347	14.7
		食品(おぼんざい・漬物・ゆば・豆腐・七味、そばうどん・ジャム・もちバター・チーズ)	6	13.0	6	9.2	2	33.3	127	30.7	96	5.2	237	10.0
		陶芸(清水焼・七宝焼)	3	6.5	7	10.8			13	3.1	149	8.1	172	7.3
		陶芸(絵付け)									132	7.2	132	5.6
染色(友禅)・織物(西陣)				1	1.5			8	1.9	144	7.9	153	6.5	
漆器加飾								2	0.5	13	0.7	15	0.6	
小計		26	56.5	44	67.7	2	33.3	290	70.0	1,795	98.0	2,157	91.3	
社会体験	一般社会・職場体験	伝統工芸職場インタビュー			1	1.5			2	0.5	3	0.2	6	0.3
		商店街(売り子・店員)、芸人、テーブルマナー	1	2.2	1	1.5			2	0.5	15	0.8	19	0.8
	福祉・ボランティア	福祉(身障者との交流)									1	0.1	1	0.0
		花植え・清掃									5	0.3	5	0.2
	平和学習	被爆者の講演									1	0.1	1	0.0
		調査活動									1	0.1	1	0.0
	震災学習	神戸防災センター、震災被災者の話								3	0.2	3	0.1	
	国際社会	英語会話・インタビュー									2	0.1	2	0.1
		国際理解(調査活動)									1	0.1	1	0.0
	進路選択	大学めぐり									1	0.1	1	0.0
生活文化	農業(農家民泊、りんご摘果・田植え・養鶏・養豚・酪農)	12	26.1	9	13.8			27	6.5	3	0.2	51	2.2	
	林業(炭焼き・炭俵作り、マキ作り)	1	2.2					3	0.7			4	0.2	
	漁業					2	33.3	2	0.5			4	0.2	
小計		14	30.4	11	16.9	2	33.3	36	8.7	36	2.0	99	4.2	
環境保全共生	自然環境	水質調査			2	3.1					1	0.1	3	0.1
		自然環境・自然観察							9	2.2			9	0.4
小計				2	3.1			9	2.2	1	0.1	12	0.5	
交流	交流	学校間交流	1	2.2									1	0.0
		小計	1	2.2									1	0.0
自然スポーツ体験	陸	スキー	1	2.2					5	1.2			6	0.3
		登山	2	4.3					1	0.2			3	0.1
		トレッキング、ウォールクライミング	1	2.2	3	4.6			2	0.5			6	0.3
		マウンテンバイク							11	2.7			11	0.5
		ネイチャーゲーム			2	3.1							2	0.1
		乗馬							10	2.4			10	0.4
		探検					1	16.7	1	0.2			2	0.1
	海・湖・川	カヌー・ラフティング	1	2.2	2	3.1			25	6.0			28	1.2
		フィッシング					1	16.7	13	3.1			14	0.6
		ウォッチング							1	0.2			1	0.0
空	パラグライダー			1	1.5			10	2.4			11	0.5	
小計		5	10.9	8	12.3	2	33.3	79	19.1			94	4.0	
合計		46	100.0	65	100.0	6	100.0	414	100.0	1,832	100.0	2,363	100.0	

分類は、(財)全国修学旅行研究協会の「修学旅行における体験学習の分類」により仕分けした。

会津・日光には裏磐梯地区を、関西には、関西・広島コースを含む。

関東方面は、伊豆・箱根、河口湖。

体験学習の特色

*調査アンケートの回答から主な意見を抜粋

・日本で唯一の団体である蹴鞠保存会の実演を見たり、体験したりできたこと。
・生徒自身が体験したいことを選択し、生徒が交渉をした。
・インターネットによる情報の収集と訪問等の情報交換。
・実施した体験学習や取材活動を通して、「総合的な学習の時間」の最終的なまとめとして、“まちづくり提言書”を目標にさせて活動した。(例、インタビューを中心に、取材活動。アドバイスをもらう、事前に連絡等)
・「外国人にインタビュー」ということで、英語で観光に来ている外国の方と会話し、日本についての印象や感想を聞いた。
・文化財(世界遺産)の雑巾がけ。
・総合的な学習との関連により、自分の住む地域と他地域との比較ができた。そのことから課題解決に結びつけることができた。
・体験学習時間を長時間確保し、交流させた点。
・京都市役所の方に街づくりの考え方、具体例をお聞きしたこと。
・神戸で地震の被害にあった人との交流(学校で育てた花を持っていき、一緒に植える)。
・体験学習で学んだことを後日、学校行事で使っていくという学習の流れ。各体験場所において、材料や原料についても学び、入手方法まで調べた点。
・美化ボランティアは実行委員(生徒)から挙げられた提案であり、林間学校での安達太良山のクリーン活動と重なるものであった。実施にあたっては、京都市市民美化センターの協力を得た。
・遊び感覚ではなく、本物を作るという質の高い体験をすることができた。
・すべての体験学習(ものづくり活動も含めて)において、その内容に関する調査や現場の方のお話を伺う活動を行った。
・3日間とも班別行動。
・事前及び事後、職人さんたちとの間で手紙のやり取りをして交流を深めた。訪問した職場のほとんどは、教員が春休み中に直接訪問し、取り組みの趣旨等を説明し許可を得た。
・農家の方は無料奉仕で生徒を受け入れてくださっている。もうすでに15年間継続している。
・インタビュー等の調査活動の実施。総合への取り組みとして位置付け。
・体験よりも人との心のふれあいの部分に重点を置いて学習活動を計画しました。質問事項を各班で用意し、それに答えていただく中からその生き方や職業に対する考え方を学びました。
・着物を着ての班行動は周囲からの注目度も大きく、なかなか味わえない良い体験であると思われる。
・営業としての体験でなく、地元の人々の善意とボランティアでこの高山での体験学習が成立していること。学校として、現地との直接交渉で計画できること。
・各自のテ - マで地元との比較文化の学習をした。
・学級の枠を越えて、希望による体験学習。
・学校からクラスごとの独自コースで実施。
・長野でなくてはできない内容を選んだ。
・農家の宿泊と夕食準備。
・長時間の体験で、仕事以外での交流もできた。
・学校と受け入れ側の二 - ズ、考え方の一致。

体験学習の成果

*調査アンケートの回答から主な意見を抜粋

・日本の文化を考える機会となり、そのよさを実感できた。
・京都の文化についての興味・関心の高まり。
・自分の生き方を見つめる機会になった。地域の産業の一端に触れることができた。
・生徒の自主性・積極性を育成できた。
・新鮮な感動をもって体験活動に取り組み、その驚きを新聞に意欲的にまとめることができた。
・体験学習実施に至るまでの活動(アポを取る、調べるなど)の中での成果の方が多くかと思うが、京都の伝統を守ろうとしている方々に接したことで日本の目に向けることができたと思う。
・我が国の歴史・文化に直接触れることで、文化遺産のすばらしさに気づくとともに、理解を深めることができた。
・京都の伝統文化(伝統工業、食、焼物など)に直接触れ、歴史の深さと重みを実体験できたこと。
・和やかな親睦を深め、作品を仕上げる楽しさも味わえた。意義深い講和を聴き、感動を共有できた。
・日本の伝統文化について興味を持てた。普段近くでは体験できないものだったので興味を持ち調べ学習に発展した。
・自分で作るという喜びやできあがったものを手にする達成感を味わうことができ、見学だけでは得られない充実感が得られた。
・社会や国語の授業で取り扱った事柄を、実際に見ることができ、理解を深めることができた。
・京都の歴史や文化に触れることができた。グループ行動を通して、お互いのよさをほめ合い協力し合う大切さを学んでいた。
・今までに体験したことのない貴重な時間であった。僧侶の修業の一面や昔の人の暮らしぶりも知ることができた。普段の生活にはない厳しさも味わえた。
・普段味わえない緊張感を味わうことができた。
・自分たちで計画した活動を通じて学ぶ力が高まった。
・普段できない体験ができたことそのものも成果であるが、係や担当の方とのふれあい、友達同士の協力がとてもよかった。
・見学という受身なものから体験という主体的な修学旅行にすることができた。
・各班のテーマに沿って事前学習したものを実施調査ができ、発表できた。学習の深化が図れた。
・特に震災学習では、被災者からの直接の話が聞けて、子供たちが「命の尊さ」について触れられた。
・ものを作る大変さとおもしろさを実感できた。
・働くことの大切さが理解でき、家庭においても手伝いをする生徒が増えてきた。
・八つ橋と京都の歴史的な関係がわかり、八つ橋を通して京都を知ることができた。
・自分の国の文化・伝統について深く知ることができた。学習した英会話を実際に使うことができた。
・文化財への関心が高まった。
・普段体験・経験できない文化に直接触れることができた。
・集団意識の高揚、歴史的な物事に対する意識の広がりや深まり、伝統的な物事に対する興味、意欲付けなど。
・研究テーマに基づいた体験だったので、課題の追求に役立った。
・日本の伝統文化を体験し、昨年度の鎌倉と歴史的側面で比較することができた。また、高崎との比較もでき、より高崎を見つめ直すきっかけができた。
・まだ成果は出ない。将来出るはず。
・生徒が計画を立て実施するにあたり、計画性、協調性等が培われたと考える。
・体験することにより、事前の学習内容がしっかり身に付いた。
・自分達で下調べから申し込み、行き先等を実施し、自分達だけですべてでき、充実感を味わえた。
・自然の中で、学校生活や群馬県内ではできない体験をすることができた。
・自分のアイデアを形にする喜びを学んだ。
・完成作品に対する満足感を得ることができた。
・見聞を広め、生きた知識の習得(体験したということで大変印象に残る活動になったようです)
・体験学習の取組みを入れたことによって、修学旅行に対する取組みが意欲的になった。
・日本の伝統文化への興味・関心が深まり、総合的な学習の時間に調査するテーマとして選択する生徒が増えた。
・日本の伝統文化の良さ、すばらしさを理解した。物を作ることのすばらしさを理解した。
・郷土の伝統文化を知る学習が高まった。
・普段遠い存在であった伝統工芸を直接体験することにより生きた社会科学習、文化的経験となった。
・事前学習が十分であったので短時間で、意欲的に学ぶ姿が見られた。物を作る労力と気配りの大変さを知った。
・興味、関心の高いものについて、事前学習により、検証の場とし、充実した体験ができた
・体験により興味を深め、他の事柄にも興味を広げることができた。
・地域産業(伝統産業)のすばらしさに触れた。地元の人とのふれあいを通して歴史・文化を学ぶ。
・職業感の育成、伝統文化への関心の深化。
・完成品や写真の知識より難しく大変だった。実体験により、感動を得、より深く考えるようになった。
・情操面での高まりが見られた。
・五感を通して思い出が深まった。クラス全員が取り組み団結心が見られた。作品や菓子作りなどつくるたのしさを学習できた。
・見るのと、実際にやることの違い、農家の大変さを理解、やりがいの。
・地元の風土・人とのふれあいを通じて自己を見つめなおし、職業観・社会性の涵養。
・新しい人間関係および地域の人との交流。
・作物を作ることの大変さを知った。農家の人との交流。
・新しいことへチャレンジする意欲の向上が見られた。
・生活の中に生きる、伝統工芸や文化に触れ、新鮮な感動と、伝統を守ることの大変さを実感した。人のやさし・出会いの大切さを学んだ。